

北陸圏・中部圏広域地方計画合同協議会

日時：平成 27 年 11 月 30 日（月）15:00～17:00

場所：ミッドランドホール

1. 開会

2. 挨拶

（中部地方整備局：茅野局長）

- ・今年 8 月に閣議決定された新たな広域地方計画（全国計画）では、各圏域の連携、相互調整の必要性が示されている。特に、中部圏、北陸圏については、交通基盤整備の進展により、日本海から太平洋にわたる一体感が強まり、産業や観光、防災等の面で、広域の連携に具体的にに取り組むことの重要性が示されている。
- ・このような中で、空港、港湾、リニア中央新幹線、北陸新幹線、高速道路ネットワークなどのインフラ整備の進展に伴い、広域連携が進展している。
- ・先般とりまとめた中間整理においては、中部、北陸の両圏域がさらに広域連携に取り組み、我が国の成長エンジンの一翼を担うという視点で整理を行った。
- ・北陸、中部の広域地方計画では両圏域が個性を活かし、広域な交流、連携により様々な対流を生み出し、活力ある地域の形成を目指している。
- ・本日は両圏域の広域連携に関する具体的な取り組みや方向性などについて、皆様からご意見を頂戴したい。

（中部経済連合会：三田会長）

- ・広域地方計画は地方創生の要であり、それぞれの地域の特性を活かしつつ、県境などを越えた広域産学官の連携などにより、地域を活性化し、その魅力を高めることが重要である。
- ・国土形成計画（全国計画）においては、各地域が個性を磨き、それらが連携することでイノベーションを創出する対流促進型国土の形成を目指すこととしている。その実現のために、コンパクト+ネットワークを進めるということで、対流、連携やネットワークがキーワードになっている。
- ・北陸圏と中部圏の連携については、物流や研究開発などの産業面、昇龍道プロジェクトなどの観光面、さらに災害時の相互補完や企業BCP遂行のための広域防災、さらにそれらを支える東海北陸自動車道完全4車化などのインフラの早期整備の取組など多岐にわたっている。
- ・例えば昇龍道については、先日タイのバンコク伊勢丹において、物産・観光展が開催された。昨年度からの取り組みであるが、今年度は石川県や富山県の企業も参加していた。このような連携の輪を今後広めていくことが大切である。
- ・また、先日 11 月 11 日には、MRJ が初飛行に成功した。MRJ の成功は、日本の航空産業のレベルの高さを示すものであり、大変誇らしく思っている。MRJ の尾翼部分には炭素織

維複合材（CFRP）が利用されている。現在、北陸と中部が連携して進めているコンポジットハイウェイ構想による共同研究が成形や加工技術を一層進化させ、我が国のものづくり産業の発展をさらに後押ししてくれるものと期待している。

- ・ 広域地方計画は今後のおよそ 10 年の計画をつくるものであるが、それぞれの圏域が 30 年、50 年の長期にわたって、我が国を牽引し続け、安全・安心で住みやすく、働きやすい地域であり続けることが必要であり、そのための計画を策定することが重要であると考えている。
- ・ 本日は忌憚のないご意見を賜りたい。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3. 議事

1) 広域地方計画策定に係るスケジュール等について

（中部地方整備局：松岡事業調整官）

- ・ 資料 1 説明

2) 北陸圏、並びに中部圏の「新たな広域地方計画（中間整理）」について

（事務局：田所室長）

- ・ 資料 2-1 説明

（中部地方整備局：森山企画部長）

- ・ 資料 2-2 説明

3) 北陸圏・中部圏における最近の広域連携に係る取組について

観光 昇龍道プロジェクトの取組

（中部運輸局：上田交通政策部長）

- ・ 資料 3-1 説明

産業 北陸・中部の産業連携

（中部経済産業局：渋谷総務企画部長）

- ・ 資料 3-2 説明

防災 大規模災害時の港湾物流バックアップ体制の構築について

（北陸地方整備局：田邊港湾物流企画室長）

- ・ 資料 3-3 説明

（豊田通商物流部：高田氏）

- ・ まず弊社の BCP の活動についてご説明させていただく。
- ・ 2012 年に総務部の中に BCP を推進する組織をつくった。現在ではこの取組を国内、海外まで展開し PDCA を回している段階である。
- ・ 物流部では 2009 年から BCP を検討していた。最初は代替拠点をどこに置くかなどについて議論していたが、物流ルートや港湾などの物流インフラに関する情報は、十分でなか

った。そこで、2 年前と今年、先ほどご説明があった代替輸送訓練を開催していただいたおかげで、北陸の方との連携や、他業界の方との情報共有が可能になった。

- ・ 昨年、震災が起こった場合を想定して、弊社の本社から敦賀港まで、一般道でどれだけの時間を要するのかというテストを行った。その結果、行きが 3 時間 30 分、帰りが 3 時間かかった。その際、各都道府県の HP の情報を参考に、道路規制の情報を見て通行可能かどうかを確認しつつ移動した。都道府県の HP でこのような情報は確認できるが、県域を跨ぐ広域的な情報は見えてこないと感じた。このような広域の連携強化・情報共有といったものが発展していくことを期待させていただきたいと思う。

防災 広域防災について（南海トラフ地震対策中部圏戦略会議等）

（中部地方整備局：森山企画部長）

- ・ 資料 3-4 説明

4）北陸圏・中部圏広域地方計画合同協議会報告書（案）について

（事務局：大野室長）

- ・ 資料 4 説明

5）意見交換

（愛知県：藤田分権・広域連携監）

- ・ 北陸圏・中部圏広域地方計画合同協議会報告書（案）では、新たな広域連携の動きや求められる連携のあり方などについて、いずれも的確にまとめていただいた。
- ・ この報告書（案）に沿った当地域の取組について紹介したい。産業連携について、地域計測分析機器情報提供システムといったものがある。これは地域の大学や公設試験研究機関など、計測、分析機器に関する情報を一元的に紹介するとともに、企業の技術相談につなげる仕組みである。このシステムは、平成 21 年度に愛知県内大学、公設試験研究機関ではじまり、その後、三重県、岐阜県、長野県、静岡県の大学や公設試験研究機関にも加わっていただき、今年度からは富山県工業技術センター、石川県工業試験場も加わり、順次、参加機関が拡大している。中部圏、北陸圏のものづくり企業における技術力の底上げには公設試験研究機関の果たす役割も大変大きいため、引き続き、公設試験研究機関の連携についてご協力いただきたい。
- ・ 次に、産業に関連して、中部国際空港の国際航空貨物輸送の拡大を記述していただいたことは大変心強く感じている。当地域では、中部経済連合会、名古屋商工会議所、中部国際空港利用促進協議会が中心となって、中部国際空港の利用を促進する「フライ・セントレア・カーゴ」というキャンペーンを行っている。この取組の一環として、北陸地区においても一日一便のトラック共同輸送を平成 22 年度から続けている。
- ・ 今後も、中部国際空港の一層の活用について、ご理解・ご支援をお願いするとともに、愛知県としても産業をはじめ、観光、物流、環境など、中部・北陸の連携・交流の活発化に向け、積極的に取り組んでいきたい。

（三重県：笠谷政策提言・広域連携課長）

- ・ 合同報告書のとりまとめに感謝申し上げる。
- ・ 産業、観光、防災の連携について基盤となるのは、交通基盤や社会資本整備であると考えている。行政の間でも中部圏知事会議の 9 県 1 市で広域連携について議論する中で、やはり東海北陸自動車道の 4 車線化や東海環状自動車道西回りなどの早期整備を国へ提言させていただいている。
- ・ また、三重県においては、来年 5 月に伊勢志摩サミットが開催される。サミット開催は千載一遇のチャンスで、ポストサミットも見据えながらその効果をさらに広げていくという意味でも、社会資本整備や交通基盤の整備は重要であると考えている。
- ・ これまでもご配慮いただいているが、これからも一層のご配慮をお願いする。

（岐阜県：宗宮清流の国推進部長）

- ・ 合同報告書については賛同する。
- ・ 岐阜県は、中部と北陸をつなぐ県であり、県としても北陸と連携しており、その紹介をさせていただく。
- ・ 広域観光では、北陸新幹線開通を機に、富山県や石川県と首都圏における共同観光 PR や広域周遊の旅行商品の開発、クルーズ船の誘致活動をしている。
- ・ また、安全安心なまちづくりという面では、富山県とドクターヘリを共同運行している。さらに、石川県とは白山の火山防災対策を連携して行っている。
- ・ 人口減少社会では行政も人的、財政的に厳しくなっていくため、通常の行政の中でも隣県や市町村同士が連携して、行政サービスを提供していくという視点も出てくると感じ、連携施策にもそのような観点が必要になると考える。
- ・ そのためにも、インフラの広域ネットワークが必要である。東海北陸自動車道の 4 車線化や中部縦貫自動車道の早期整備を着実に進めていただきたい。

（名古屋市：中田企画調整監）

- ・ 合同報告書はよくまとめてあり、私どもとしても賛同する。
- ・ インフラ整備が非常に重要であると感じている。特に東海北陸自動車道をはじめとした縦のラインである。
- ・ 名古屋市は現在、リニア開業を見据え、名古屋駅の改造をどのように進めるかが大きな課題である。名古屋駅と高速道路が上手く繋がることで高速道路の使いやすさにも影響を与える。
- ・ また、一体的な圏域としては、地道に中部圏と北陸圏が繋がることも重要であると考えている。例えば、武将という観点では、名古屋の中川区出身である前田利家が金沢の城主になっている。このような点もあり、中川区の荒子にある小学校と金沢の小学校が交流している。このような地道な交流が様々な交流に繋がると考えている。このような取組も広域的な観点を持って今後も進めていきたいと考えている。

（福井県：荒木政策推進課長補佐）

- ・ 本県では、北陸新幹線がまだ延伸していないというのもあり、他県と比べてインフラ整

備が少し遅れた地域となっている。現在、このインフラが整備された時への準備としてアクションプログラムの検討に着手している。

- その中でも、広域連携が非常に重要であるとも認識している。特に広域産業的な連携については、中部縦貫自動車道が開通することで、中部圏との結びつきが強くなる。当県としては様々な面での広域連携をより強くしたいと考えている。
- 広域観光については、禅と精進料理の福井をテーマにミラノ万博に出展をした。4 日間の開催であるが、約 1 万 8 千人の方にご来場いただき、精進料理や禅に対する関心の高さを感じた。当県では永平寺等の日本遺産登録を目指しており、また世界三大恐竜博物館である福井県立恐竜博物館もあり、こういったものは昇龍道プロジェクトの魅力の幅を拡げるものになると思う。広域観光の魅力向上に今後とも力を入れていきたい。

（北陸経済連合会：久和会長）

- 少子高齢化、東京一極集による地方の大幅な人口減少が危惧され、国政においても地方創生が大きなテーマである。明治以来続いてきた地方から東京への人の移動という大きな流れを止めて、それをさらに逆転するのは並大抵のことではない。しかし、絶対に実現しなければならない課題である。長期的な視点を持って取り組むべき課題である。
- 北陸地域は産業集積も進み、教育レベルも高く、住みやすさでも上位に位置している等、さらなる発展のポテンシャルはあり、地方創生のモデルになると考えている。今後、中部圏とさらに広域連携を図ることを我々の施策にも反映し効果をさらに発揮していきたい。
- 報告書にもあるように、産業、観光、防災、環境保全については、いずれも必要不可欠なもので、それらが本当に効果を発揮するためには、人的、物的なネットワークの構築が必要であると考え。中部圏と北陸圏の南北軸が強固になることで、日本海側、太平洋側の二面活用型の国土が形成される。そうすることで両地域にあるそれぞれの特徴あるものづくり企業の連携もさらに期待できる。このためには、東海北陸自動車道の早期全線 4 車化をはじめとした、高規格幹線道路などの社会インフラ整備が重要である。
- また、防災の連携については、常時から行っていなければ、災害時に機能しない。南北軸のインフラが充実することで、常時の物の流れが変わり、災害時にも効果を発揮していくと思う。
- さらに、関西圏や東京圏との連絡を図ることで、北陸圏、中部圏、関西圏、東京圏という日本の中央に位置する大変強力なエリアができることになる。このエリアができることで、新産業の創出や産業のさらなる活性化だけでなく、長期滞在型の周遊ルートの形成や、災害時のバックアップも期待できると考えている。このようなエリアをつくるためにも、北陸新幹線の早期全線整備が不可欠である。平成 34 年度末の敦賀開業のさらなる前倒しと、大阪までのフル規格による早期全線整備を速やかに進めるよう強く要望する。
- 今後とも地方創生に向けて、中部圏と連携して進めていきたいと考えている。よろしく願います。

（中部経済連合会：三田会長）

- ・最後に報告された合同報告書では、様々な課題に対する将来の方向性が記載されていると感じる。今後、各地域でこれを具体化する必要がある、その中で、北陸と中部が連携をとりながら進めることが何よりも重要である。具体化する際には、スケジュールが重要で、できればそれを書き込めるのがよいが、出来る範囲の中でしっかりと方向性を示しながら進めていただきたい。
- ・例をあげると、フォローアップは随時ということでお話があったが、書き込む必要はないが、ある程度定期的に見ていく必要があると感じる。
- ・また、中部は日本の中でインフラ整備が最も効果を上げた地域であると理解している。様々な連携をするうえでも、道路や通信などの多様なインフラがつながっていることが非常に重要である。その中でも、東海北陸自動車道の早期4車線化は重要であり、久和会長のお話の中でもあったが、日本海側と太平洋側の二面活用を実現するためには、軸の太さが何よりも大切である。したがって、この点については具体的な名称は必要ないが、インフラのさらなる整備を強調していただきたい。
- ・また、ひとつづくりの連携があってもよいと考えている。現在、少子高齢化が進展する中で、働く人の絶対数が減少している。国内でいかに人口を増やし、質の高い人材を育てていくかという点については、もっと連携しながら議論する必要があると考える。
- ・一例をあげると、富山では障害者と高齢者を一緒に受け入れるデイケアが行われている。このようなものを各地域でしっかりと連携しながら取り入れることも必要であると思われる。
- ・これらの方向性をしっかりと確立し進めて行くためには、連携という言葉がキーワードになる。これは北陸と中部の連携、産業界の連携ももちろんであるが、県域や市町村域を越えた連携も非常に重要であると思う。北陸と高山の3つ星街道のような連携や、ドクターヘリをはじめ防災など、様々な連携を圏域全体に広めていくことが、北陸と中部の連携には必要である。
- ・今後、様々な形で北陸と中部の連携をこの合同報告書をもとに進めていただきたい。

（中部経済連合会：三田会長）

- ・本日いただいたご意見に関しては、北陸と中部それぞれの広域地方計画に反映していただきたい。
- ・本日ご説明いただいた、北陸圏・中部圏広域地方計画合同協議会報告書（案）については、異議なしということです承とする。

（事務局：大野室長）

- ・本日のご意見や、合同報告書の内容を踏まえつつ、北陸圏、中部圏の広域地方計画の策定に取り組む。引き続きご協力をお願いいたします。

4. 閉会

（北陸地方整備局：藤山局長）

- ・本日はお忙しい中ご参加いただき、ありがとうございました。

- ・ 三田会長からは 10 年先、30 年先を見据えて住みやすく働きやすい地域というお話があり、久和会長からは東京への人口流動の逆転は並大抵のことではないというお話と、日本海太平洋の二面活用についてのお話をいただいた。
- ・ 各圏域がしっかりと発展していくためには、地域の個性を活かすことと連携が重要であると考えている。観光、産業、防災、環境等の面で、今後もしっかり連携していきたい。
- ・ 三田会長からお話があったが、各市町村におかれても、しっかりと連携を進めていっていただきたい。本日はありがとうございました。

以上